

令和8年度小平市立小平第六小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに東京都平均・全国平均を数ポイント上回った。特に「書くこと」においては、正答率自体は他の領域より低いですが、都や全国平均より大きく上回った（5ポイント以上）。

課題

文脈に応じて漢字を正しく書く問題において都・全国平均を下回る。文章から必要な情報を抜き出して自分の考えをまとめて書く問題において、都・全国平均は上回るものの正答率は低く、引用して書く力の育成が必要。

学校で取り組む具体的な改善策

漢字の定着を図るため、単元末の漢字テストに加え、既習の漢字を日常的に使う活動や、意味を確認しながら書く活動を継続的に取り入れる。誤りやすい漢字は個別に振り返る時間を設け、繰り返し練習する機会を確保する。また、文章を読んで得た情報を引用し、自分の考えを表現する活動を国語だけでなく他教科の学習にも広げ、資料から必要な語句を抜き出して表現する力を計画的に育てていく。

【算数】

状況の分析

「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに全国平均を上回り、「知識・技能」は東京都平均も上回った。特に「測定」や「数と計算」の領域で高い正答率を示す一方、「変化と関係」はやや低い正答率であった。

課題

「記述式」の問題の中でも特に、分数の大小を比較しその理由を数や言葉を用いて記述する問題では都・全国平均をいずれも下回り、大きな課題として挙げられる。また、二つの表から条件に合う数を読み取る問題も正答率が低く、複数の情報を関連付けて読み取る力に課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

分数の大小比較については、数直線やテープ図などの教具を用いて量感を伴った理解を促すとともに、「なぜそう言えるのか」を式や言葉で説明する活動を単元を通して繰り返し行う。また、二つの表やグラフなど複数の情報を含む資料を読み取る学習を計画的に取り入れ、必要な情報を選び出し、条件と関連付けて考える力を育成する。さらに日頃の授業でも、答えを求めるだけでなく根拠を言葉で説明する場面を意図的に設定し、記述する力を高めていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

5年生までに受けた授業でタブレット端末を「ほぼ毎日」使用したと回答した児童の割合は都・全国平均をいずれも上回った。これは、過年度までの状況から大きく改善した結果である。また、「インターネットを使って情報を収集できる」「PC・タブレットで文章を作成できる」「プレゼンテーションを作成できる」と回答した児童の割合は、いずれも都・全国平均と同程度か上回っており、基本的な操作技能は着実に身に付いている。

一方、「ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」と回答した児童の割合は都・全国平均を下回った。基本的な操作技能に比べ、集めた情報を整理し、考えを構造化する力の育成が引き続き課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

タブレット端末の日常的な活用が定着してきたことを踏まえ、今後は「使うこと」から一歩進めて、集めた情報を図や表、思考ツールを用いて整理し、考えを構造化する活動を各教科で計画的に取り入れる。授業支援アプリケーションの活用事例を教員間で共有し、情報整理のスキルを段階的に高める指導計画を徐々に整備するとともに、学校公開等を通して、成果を保護者・地域と共有していく。